

医院だより

令和 6 年 4 月 (249)

秋 山 医 院

藤岡市小林748-8

☎0274-22-8315

四月

別名 卯月(うづき)、建巳月(けん

しげつ)、孟夏(もうか)

卯月は卯の花が咲く季節、あるいは卯の月に咲くから卯の花だとも言われるが定かではないと。卯の花の幹や枝の髓が中空ということで空(から、うつろ)の木と呼ばれ更に卯月に変化したとの説もあります。

菜の花



目次

- 1 四月の異称、四月の花、四月の言葉
- 2 四月の暦、お知らせ
- 3 当番医、健康テレフォン
日野原重明先生の言葉
- 4 大岡 信選集 けんこう(百七十二)
群馬県感染症発生動向調査より
- 5 院長のひとりごと(二一八)一休さん

豆腐の搾りかすをオカラと呼びますが、料理名が「おから(空っぽ)」ではまずいから「卯の花」に変えたのだともいわれています。

こうなると日本語は自由自在ですね。

(河出書房新社、鈴木光弘著「暮らして生かす旧暦ノート」より一部引用)

「四月の花」。

さくら、開花宣言とは、植物季節観測用標本木の開花が五輪咲いたとき開花としています。

そのほか、チューリップ、たんぽぽ、山吹(やまぶき)、著我(しゃが)、蓮華(れんげ)、花水木(はなみずき)、堇(すみれ)、春蘭(しゅんらん)、片栗(かたくり)、一人静(ひとりしずか)、一輪草(いちりんそう)、座禅層(ざぜんそう)、熊谷草(くまがいそう) 野山を歩いてみて、いくつ見つかるかな。

『四月の言葉』

さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ(先

生)、この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですか。それとも両親ですか。」イエスは答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の技がこの人に現れるためである。」

(ヨハネによる福音書第九章一〜三節)

ここに災禍(わざわい)が完全に恩恵(めぐみ)の立場から解釈されたのである。盲目と言えは、いずれの国においても、特別の天罰として認識されていたにもかかわらず、イエスはここにはつきりと盲目は天罰ではない、恩恵の顕れるための機会であると言われたのである。実に大胆な言(ことば)でこのような例はない。これは神の子を待たずに言うことはできないことである。イエスのこの言によって災禍に対する人類の思考は一変したのである。まことに一変すべきである。災禍でなく、天罰でもない、神の慈悲(いかり)の表現でもなく、その反対である。災禍は神の行為の顕れるための機会である。そのためもし人がこれをその目的をもって用いるならば恩恵である。身の艱難はすべて神が私たちにお降しになる恩恵であると。これはイエスが特別に人に伝えられた大福音であって、キリスト信者である者はすべてこの福音に従って人生を解釈すべきである。

(内村鑑三 二〇一一年三月二十三日)

「四月の暦」

一日 親鸞上人誕生会

三日 隠元禅師忌

五日 清明 すべてのことが清らかで生き生きとするころのこと。若葉が萌え、花が咲き、鳥が歌い舞う、命が輝く季節の到来です。

初候 玄鳥至る(つばめきたる)海を渡って、つばめが南からやってくるころ。また去年の巢に戻ってくるだろうかと気にかれたり。

次候 鴻雁北へかえる(がんぎたへかえる)日が暖かくなり、雁が北へ帰っていくころ。夏場はシベリアへ、また秋には日本へ帰ってきます。

末候 虹初めて見る(にじはじめてあらわる)春の雨上がり、空に初めて虹がかかるころ。これから夏にかけて、夕立の後に多く見られる季節です

六日 春の全国交通安全運動
七日 世界保健デー 法然上人誕生会
八日 花まつり、灌仏会
十一日 メートル法公布記念日

十二日 世界宇宙飛行の日

十五日 科学技術週間

十八日 発明の日

十九日 穀雨 たくさんのおす春の雨が降るころのこと。この季節の終わりには、夏の始まりを告げる八十八夜が訪れます。

初候 苧始めて生ず(あしはじめてしょうず)水辺の葦が、芽を吹き始めるころ。夏には背を伸ばし、秋には金色の穂が風になびきます。

次候 霜止んで苗出ず(しもやんでなえず)霜のおおいがとれ、健やかに苗が育つころ。種籾が芽吹き、すすくと、あおあおと伸びていきます。(新暦ではおおよそ四月二十日〜二十四日ころ)

末候 牡丹華きく(ぼたんはなきく)牡丹の花が咲き出すころ。中国では、牡丹は花の王さまというほど愛でられました。(新暦ではおおよそ四月三十日〜五月四日ころ)

二十日 郵政記念日
二十九日 昭和の日

お知らせ

一、マイナンバーカードでの受付ができます。保険証の代わりに使えます。将来的には他院での処方や特定検診結果もここから知ることができます。

「まだマイナンバーカードがない方は、月の最初の受診時には、受付に保険証を提示してください。」

二、診療案内

◎「かかりつけ医」について

当院では、日本医師会に認定された日医かかりつけ機能研修制度の「かかりつけ医」が診療にあたります

◎「発熱外来」について

外来において、受診歴の有無に関わらず、発熱その他を疑わせる症状を呈す患者の受け入れを行っております。

○ 一般外来診療・往診・在宅医療

○ 骨粗鬆症の検査・治療

○ CT、MRI、PETの予約

○ 胃カメラ・大腸カメラ

○ 肺炎球菌・带状疱疹ワクチン

三、当番医 五月十二日(日)

9時から18時まで

四、群馬県保険医協会二十四時間健康テレホン

電話〇二七―一三四―四九七〇

<http://www.rajin.com/kenko/>

月	片頭痛
火	歯の変色、黄ばみ
水	交通事故とむち打ち損傷
木	継続的な歯科受診の重要性
金	舌苔
土日	子供の予防注射

「日野原重明先生の言葉」

大切なことはすぐにはわからない

・・・ただ、様々な改革に挑戦してきた僕ですが、その根底には常に患者さんのため、未来の医療のためという思いがありました。けれども、新しいことを始めるときというのは、必ず反対する人も出てきます。

面白いことに、反対する人、否定的な意見を言う人というのは、ほとんどが同業者、つまり医者でした。アメリカとは環境

が違う、日本では実現しない、などということもずいぶんいわれたものです。

聖路加国際病院の立て直しをしたときにも、あの広い廊下を見て、「日野原は贅沢ばかりする。こんな広い廊下が何のためになるのか」と非難を受けたものです。しかし、忘れもしない1995年地下鉄サリン事件のとき、現場に近かった聖路加病院はこれまで経験したことのない、まさに戦場と化しました。

贅沢だと批判を受けた廊下には、患者さん一人一人を受け入れる酸素吸入を含めた施設的な体制が整っていました。そのため、一度に600名を超える、生死の境をさまよう患者さんを受け入れることができました。

ひとたび戦争がおこったとき、医療現場がどうなるかということを実体験として知っていた、これまでの経験が役に立っています。

日野原重明「生きていくあなたへ」



大岡 信著 『新折々のうた』四 から

春雨や蛙(かはづ)の腹はまだぬれず

与謝蕪村

『蕪村遺稿』所収。蕪村には特筆すべき美点
がたくさんあるが、その一つは彼ほどみこ
とに春雨の風情を詠んだ詩人もいなかろう
ということ。「春雨やゆるい下駄貸す奈良の
宿」「春雨や人住みて煙壁を洩る」「物種の
袋ぬらしつ春のあめ」「春雨や小磯の小貝ぬ
るほど」「春雨にぬれつつ屋根の手毬か
な」「春雨に下駄買う初瀬(はせ)の法師哉」
等々。右に掲げた句でも、目の付け所の見
事さはさすがに絵描き。

嘴(くちばし)をあけて鳴けるに朝の日はそのく
れなるのどに差しこむ

石黒清介

『西安』(平七)所収。歌集で並んでいる他の歌
を見ると、鳥は目のふちの白いトラツグミ。歌人
の友好訪中団の一員として中国を訪問した時
の、北京街頭所見。作者は短歌新聞社の社長だ
が、歌人としてはこれで第十九歌集という多作
の人。対象を力まずに淡々と描写叙述する詠風
が独特である。黄色い嘴の鳥が、大きくあけたく
れないのどに、あかるく朝日がさしこむ。なん
の変哲もない、気分のいい朝。

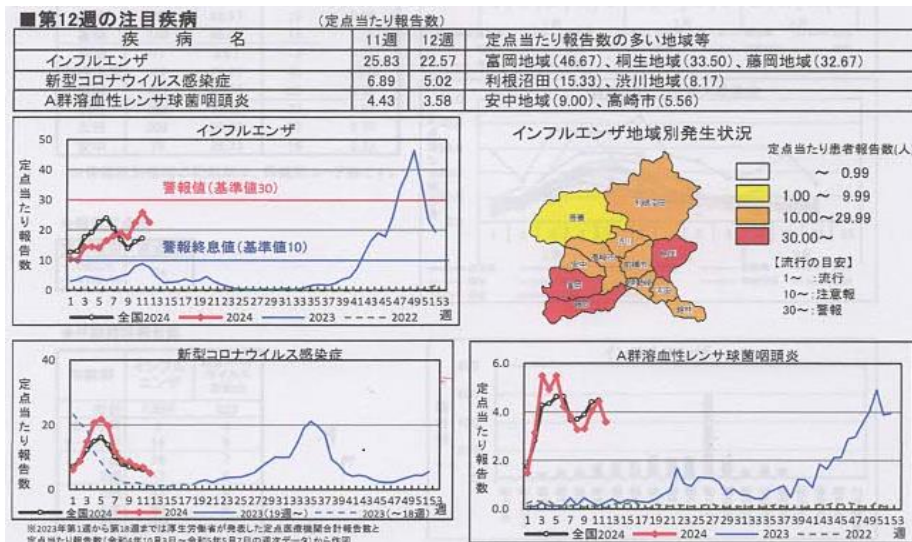
けんこう (百七十二)

群馬県感染症発生動向調査より(12週)

(群馬県衛生環境研究所感染症制御センター)

- (1) インフルエンザの報告が継続してお
り、県内では警報が発令中です。
引き続き、こまめな手洗いや周りに感
染を拡げないよう、咳やくしゃみが出
るときはマスクを着用するなど咳エチ
ケットを行いまししょう。
- (2) A群溶血性連鎖球菌咽頭炎が一部の地
域で多く報告されています。咳やくしゃ

みのしぶきに含まれる菌を吸い込んだり
汚染された手で、口や鼻を触ることによ
り感染します。石鹸と流水を使った手洗
いを行いまししょう。



院長のひとりごと(二一八)

一休さん(恩師 T先生の想い出)

その一

◇T先生には、小学1年生から3年生まで担任していただいた。4年生になったとき級友と二人で教員室の前の廊下を歩いて行くと、前からT先生が歩いてくるのが見えた。とおせんぼう(通せん坊)をしてみようと廊下の左側に移り、通り道を塞いだ。

◆「お・・・」

と気づかれた先生は、

「廊下を歩くときは右側通行だよ」

と言われ、われら一瞬、ハツとしたが、回れ右をして、先生に背を向けて、右側通行を守りつつ、それでも通り道は塞いだ。

◇「お、(やるな)」

と、先生驚いて見せて、今度はご自分も回れ右をして隣の通路に入り

「フアッハハハ」

と、独特の豪快な笑い方を残して、大きく両手を振ってうしろ向きのままで歩いて行ってしまわれた。

「やられたっ」

◆

『端(橋)を通らず真ん中を通ってきましたよ』という童謡「一休さん」のようなできごとだったなと70年近くも前のことを思い出し、「他愛もない思ひ出話」を一席と、書き出してみたら、次々とT先生のことが出されて来て止まらなくなりました。

七興山の桜



(正直 うそをつくな)

◇2年生のときだったか、答案を教室の前の先生の机のところまで順番に取りに行くことがあった。

『答案をもらったらすぐに自分の机に戻って静かにしていなさい』

珍しくこまごまと注意された。

◆これもまた自分にしては珍しくすぐに席にもどらずにぐずぐずしてほかの生徒のところでおしゃべりをしてから席に戻った。今までこんなことはなかったのだから。まるで「魔が差した」ようなできごとだった。

◇答案を配り終えた先生は、言われた。

「席に戻って、静かにしていなさいと言ったのに、すぐ席に戻らないでいた人がありました、その人たちは手を挙げなさい』

と。私は、先生は気付いていなかったかもしれない、と思い手を挙げることを迷っていたが、次にすぐ先生の次の言葉が襲い掛かって来ました。手を挙げた子供には

「○○君は正直に手をあげました・・・」

私はその時、しまった、と思い、遅れて手を挙げようかとも考えたのですが、すぐに私の名前を呼ばれ、机のわきに立たされ説教されることになりました。

◆「ほかにも立っていた人がいたのに、自分だけが立たされた」

と、友達や、自分に言い訳をしましたが、自分でもこともながらに「往生際が悪い、言い訳がましくて、醜いことだな」という感じが強く、今思い出しても苦々しい出来事でしたので忘れなかったのですが、あの時の指摘、あの指導がその後の自分の歩みに深く影響していたことがだんだん分かります、今ではその出来事を感謝の気持ちなしでは思い出せないのです。

(謙讓 弱い人をいたわる 道を譲る)
◆「ニルスの不思議な旅」という本を先生が教室にそろえてくださったことがあります。順番に貸し出しをして下さり、皆争って早く借りようと順番待ちしていたのですが、私の前に一人の女生徒が割り込んできて借りてしまったことがありました。ヒステリックに「自分が借りたい借りたい」とその子がいうので、先生にその

ことを言いつけに行くと、

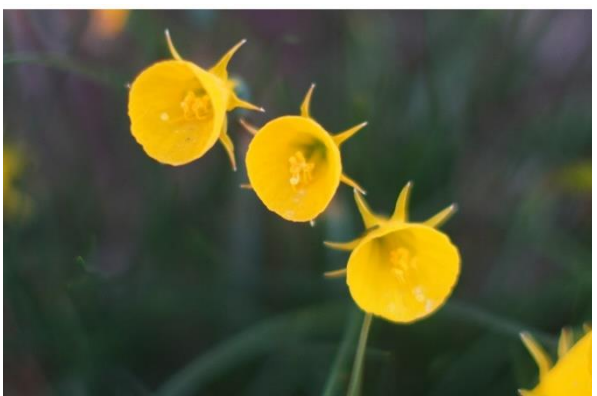


「○○さんは女の子だから、先に貸してあげなさい」

と、優しく言われ、そのことで憤りもスツと消えてしまったことに気づきました。今思うと不思議な出来事でした。

誰かが見ていてわかってくれているという感覚が持てると、どんなつらいこと、いやなことにも我慢できるのかもしれない。

ペチコート水仙



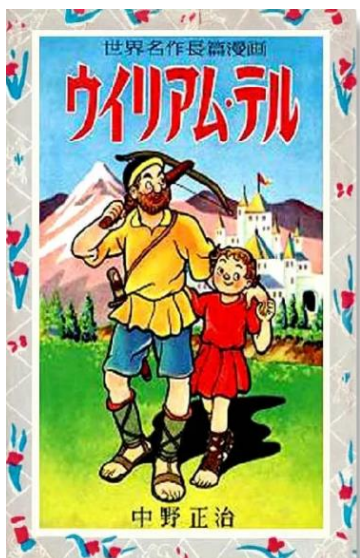
(文芸クラブ 芸は身を助ける)
◇5年生のころ、先生が新しく学年を超えて文芸クラブという部を作られて、

「一緒にやってみないか？」と誘われました。

「アイウエオアオ、カケキクケココ、」たけやぶやけた、うらのたけやにたけたてかけた」「お客が柿剥(む)きや飛脚が柿食う、飛脚が柿剥きやお客が柿食う、お客も飛脚もよく柿食う客だ」

7
などの早口言葉の練習、粘土で指人形を作り、着物を着せて指で体の動作を表現する練習も行いました。

◆放送劇で「ウイリアムテル」を練習しテープレコーダーに録音し、昼食時間に全校に流しました。一番驚いたのは、録音機を通して聴いた自分の声で、こんな変な声だったのかとがっかりしました。先生はこのウイリアムテル序曲の曲がお好みで、放送劇の中でも他の場面でも随所に使って昼休みなどに流しておられました。聞いてみると自然に心と体が躍り出すようこの音楽を聴くと、T先生のこと、放送劇のこと、テープレコーダーのことが懐かしく思い出されます。弁当を食べながら聞いた後、



一人の級友が「お前は、弓は下手だろうが、しゃべりの名人だ」とほめられたのか、けなされたのか?とにかく主人公テルのセリフが実に多い脚本でした。

◇学芸会では一年に一つ、新美南吉作「ごんぎつね」と昔話「かぐや姫」の劇を学年ごとの発表とは別に、文芸クラブの仲間と一緒に発表しました。

『かぐや姫』の竹取の翁の役では、藁で編んだ円座を近所の農家のおじいさんに作ってもらい、見事な出来栄で、藁の敷物の方がほめられました。その後50年間、最近までわたしと一緒に下宿を転々としてきました。直衣直垂など庶民貴族の衣類はT先生が破れにくい紙を使って作ってくれて、劇を見た人が

「あのような衣類をどこで求めたのか?」と質問が出たほど立派にできたものでした。

◆「ごんぎつね」では脚本で『ごん』とウナギの場面を読み合わせた後、

「それで、ウナギはどうするんですか?ウナギは発表のとき買ってくるんですか?」と皆でお尋ねすると、皆がそう言うのを待つ

ていたかのように、先生は体の前でウナギが逃げるのを掴まえようとして右手、左手と交互に前へ、上へ、右へ、左へと動かし実際にヌルヌルしたウナギがそこで体をうねらせているかのようにやって見せてくれました。このような仕草で実際にははずのウナギが実際いるように表現できることに私たちは興奮して歓声を挙げ、みんながウナギを掴まえる真似をやってみて大喜びでした。



(良薬は口に苦し)

◆通知表をもらうと翌朝母が目を覚ました私に通知表に書かれている先生の言葉を話してくれました。その言葉は聞いているのがとても辛いことばかりが指摘されていたのですが、今考えるとこの時代の先生から指摘されていることがその後の自分の生き方いろいろな場面で想い出されブレーキになってくれたことに驚きます。

「他人の悪口をいうな」

「自惚れないこと」
が記憶にのこっています。

(初心忘るべからず)

◇高校卒業後、予備校に行っていた時期があります。田舎の駅で一人、ベンチに座って上野に向かう列車を待っていたとき、偶然駅に立ち寄り寄られた先生が私を見つけて声をかけてくださり、別れ際「初心を忘れないで」と言われました。こんなにありふれた言葉が、これほど胸を打つものなのかと心洗われる気持ちでお別れしました。

(感謝 感涙)

◆昭和60年の日航機事件の後、九月に入ってからか、小中学校合同の同級会が田舎で開かれました。私は会の後そのまま会場から近い小さな駅まで歩いて、帰りの電車に乗ることにしていました。会の途中で辞去のあいさつをしていると、T先生が向かいのほうで立ち上がって、みんなに日航機事件のときに電話をかけてきてくれた時のことを紹介してくださった後、「本当にご苦労様」と言っていました。

T先生に褒められたことは後にも先にもこれが初めてのことでした。あの時は、中学校、高校の担任だった先生方からも、日航機墜落の2日目くらいに励ましの電話を頂いていたことも思い出しました。
わたしは駅までいそいで歩きました。うれしい気持ちがかぼれ散らばらないように、注意しながら。

花吹雪とタンポポ



諸葛菜(庚申山)

